

## 「自分大好き」

## 「自分のよさを伸ばそうとする子」

|        |                      |       |          |  |
|--------|----------------------|-------|----------|--|
| (児童)   |                      |       |          |  |
| □項目 2  | 朝食                   | 100%  | (± 0)    |  |
| □項目 3  | 好き嫌いなく食べる            | 96.2% | (4.5%↑)  |  |
| (保護者)  |                      |       |          |  |
| □項目 1  | 規則正しい生活              | 96.2% | (4.5%↑)  |  |
| □項目 2  | 朝食                   | 100%  | (± 0)    |  |
| (教職員)  |                      |       |          |  |
| □項目 16 | 基本的生活習慣の定着に向けた家庭との連携 | 78.6% | (21.4%↓) |  |

☆保護者のサポートにより食に関する基礎的生活習慣づくりは定着  
学校と家庭とのより一層の連携した具体的取組の推進は必要

成果 1

自分大好き 友達大好き 学び大好き 竹枝大好き  
ゴールに向かってトライする 竹枝笑楽校の子ども

## 「互いのよさを認め高め合う子」

|        |                 |       |           |           |
|--------|-----------------|-------|-----------|-----------|
| (児童)   |                 |       |           |           |
| □項目 6  | 協力して取り組むことがうれしい | 91.7% | (※ 3.2%↓) | ※高い水準はキープ |
| □項目 7  | 相手のことも考え行動する    | 88.5% | (3.2%↓)   | ※高い水準はキープ |
| □項目 9  | 学校に行くのが楽しい      | 88.5% | (3.2%↓)   | ※高い水準はキープ |
| (保護者)  |                 |       |           |           |
| □項目 11 | 学校に行くのが楽しい      | 96.2% | (3.8%↓)   | ※高い水準はキープ |
| □項目 14 | 思いやりの心の育ち       | 92.3% | (3.5%↓)   | ※高い水準はキープ |
| □項目 30 | 学校生活を通した思いやり・協力 | 96.2% | (3.8%↓)   | ※高い水準はキープ |
| (教職員)  |                 |       |           |           |
| □項目 1  | 組織的な取組          | 100%  | (± 0)     |           |
| □項目 8  | 安心できる学級集団づくり    | 100%  | (± 0)     |           |
| □項目 20 | 社会性を育む工夫        | 92.9% | (15.9%↑)  |           |

成果 4

☆学校全体で安心できる学級集団作りを支える組織的な取組や個の実態に応じた指導・支援  
を通した、互いの人権を尊重しながら人と関わる力の醸成や、他者理解の促進  
→一方で肯定的な回答ではない児童に対する継続的な個別性の高い関わりは必要

|        |         |       |         |           |
|--------|---------|-------|---------|-----------|
| (児童)   |         |       |         |           |
| □項目 5  | よい所がある  | 96.2% | (8.7%↑) |           |
| □項目 15 | あいさつ    | 88.5% | (1.0%↑) |           |
| (保護者)  |         |       |         |           |
| □項目 5  | あいさつ    | 91.7% | (4.2%↑) | ※高い水準はキープ |
| (教職員)  |         |       |         |           |
| □項目 7  | 信頼関係の構築 | 92.9% | (7.1%↓) | ※高い水準はキープ |

☆あいさつへの意識向上と個に応じた信頼関係づくりを通した自己肯定感の醸成

成果 2

## 「ゴールに向かってトライする竹枝笑楽校」

|        |           |       |          |  |        |             |       |         |  |        |              |       |         |  |
|--------|-----------|-------|----------|--|--------|-------------|-------|---------|--|--------|--------------|-------|---------|--|
| (児童)   |           |       |          |  | (保護者)  |             |       |         |  | (教職員)  |              |       |         |  |
| □項目 4  | あきらめない    | 80.8% | (6.7%↓)  |  | □項目 25 | 充実した楽しい学校生活 | 92.3% | (7.7%↓) |  | □項目 8  | 安心できる学級集団づくり | 100%  | (± 0)   |  |
| □項目 22 | 目標を持ち取り組む | 76.9% | (23.1%↓) |  | □項目 28 | 目標を持ち取り組む   | 88.5% | (9.3%↑) |  | □項目 21 | 選択と挑戦の場・指導   | 85.7% | (8.8%↑) |  |

☆児童との信頼関係構築、集団作りによる安心できる人的環境づくりの推進や自己選択や挑戦の場を設定した学習活動の取組の推進により  
「目標をもって 最後まであきらめない」児童も多いが、一方で個の目標設定に係る個別の指導や支援の工夫の改善も必要

## 「学び大好き」

## 「自ら考え、主体的に学ぶ子」

|        |                  |       |          |  |
|--------|------------------|-------|----------|--|
| (児童)   |                  |       |          |  |
| □項目 10 | 学校の授業は分かりやすく楽しい  | 84.6% | (1.3%↑)  |  |
| (保護者)  |                  |       |          |  |
| □項目 18 | ICTを活用した積極的な教育活動 | 84.6% | (1.3%↑)  |  |
| (教職員)  |                  |       |          |  |
| □項目 6  | ICTを活用した教育活動     | 85.7% | (1.1%↑)  |  |
| □項目 19 | 主体的な学びとなる指導・支援   | 92.3% | (0.6%↑)  |  |
| □項目 28 | 個の実態に応じた指導       | 100%  | (15.4%↑) |  |

☆授業支援ソフトの導入と効果的な活用法による学習指導の充実  
多様な個の実態に応じた学習の個性化への挑戦と「分かる」「できる」授業づくりと学習意欲の向上

成果 3

## 「地域のよさを知り発信しようとする子」

|        |              |       |         |  |
|--------|--------------|-------|---------|--|
| (児童)   |              |       |         |  |
| □項目 14 | 地域の行事に参加している | 87.5% | (5.8%↑) |  |
| (保護者)  |              |       |         |  |
| □項目 8  | 子どもと地域行事に参加  | 88.5% | (1.0%↑) |  |
| (教職員)  |              |       |         |  |
| □項目 13 | 家庭や地域と協働した取組 | 85.7% | (6.6%↓) |  |

成果 5

☆地域・家庭との連携による体験活動等の取組が児童の地域への行事への関心や関わり契機になっている  
か。「地域のよさ」を学習できる活動・場面を整理し、発信していく一層の手立ては必要。

## 「竹枝大好き」

## R 6 年度総合調査の分析<課題編>

### 「自分大好き」

#### 「自分のよさを伸ばそうとする子」

|       |                      |               |
|-------|----------------------|---------------|
| (児童)  |                      |               |
| □項目22 | 進んで読書活動              | 61.5% (R5より↓) |
| □項目26 | メディアコントロール           | 53.8% (R5より↓) |
| (保護者) |                      |               |
| □項目4  | 家庭で一緒に読書             | 42.3% (R5より↓) |
| □項目10 | メディアに関する約束           | 76.9% (R5より↓) |
| (教職員) |                      |               |
| □項目16 | 基本的生活習慣の定着に向けた家庭との連携 | 78.6% (R5より↓) |

◆児童・保護者共にの読書活動のポイントが4年連続で他項目と比較して低い。また、児童のメディアコントロールに関する項目のポイント3年連続下がっている。端末の持ち帰りの積極的な推進との関連からも、家庭との連携した取組が必要。デジタルの推進（メディア）とアナログ（読書）の良さを整理し、現取組の改善・変更・調整が必要か。

### 「ゴールに向かってトライする竹枝笑楽校」

|       |            |               |
|-------|------------|---------------|
| (児童)  |            | (教職員)         |
| □項目22 | 目標を持ち取り組む  | 76.9% (R5より↓) |
| □項目21 | 選択と挑戦の場・指導 | 85.7% (R5より↑) |

◆児童については、一定数の成果はあるが、昨年度からポイントの大幅減。又、教職員の取組と児童の意識のズレがある。授業や学校行事に係る児童の目的意識や目標設定の在り方及び自己評価（振り返り）についての取組の改善は必要か。

### 「学び大好き」

#### 「自ら考え、主体的に学ぶ子」

|       |                |               |
|-------|----------------|---------------|
| (児童)  |                |               |
| □項目11 | ICT活用による学びやすさ  | 69.2% (R5より↓) |
| □項目12 | 情報を収集し、まとめて発表  | 69.2% (R5より↓) |
| □項目18 | 家で苦手な学習の取組     | 50.0% (R5より↓) |
| □項目19 | 家で計画を立て学習      | 42.9% (R5より↓) |
| □項目21 | 不思議に思う等を進んで調べる | 57.7% (R5より↓) |
| □項目23 | 意見を比べて考え表現     | 64.3% (R5より↓) |
| (保護者) |                |               |
| □項目4  | 授業が楽しい等と言っている  | 69.2% (R5より↓) |
| (教職員) |                |               |
| □項目4  | 思考・判断・表現力の育成   | 85.7% (R5より↓) |

◆昨年度よりポイントの低い項目が多く散見。自分から進んで学び、探求しようとすることや計画を立てて学びを調節していこうとする項目は、近年の課題である。ICT活用の学習の学びやすさが児童に浸透しきれていない。上学年児童は、友達と意見交流しながら考えを深めたり、情報を整理して発信したりする学びの良さを十分に実感できていない。

#### 「地域のよさを知り発信しようとする子」

|       |                  |               |
|-------|------------------|---------------|
| (児童)  |                  |               |
| □項目13 | 地域の方から進路・生き方を考える | 65.4% (R5より↓) |
| □項目20 | 地域・岡山市の歴史自然への興味  | 71.4% (R5より↓) |
| (保護者) |                  |               |
| □項目15 | 郷土を愛する心の育ち       | 80.8% (R5より↓) |
| (教職員) |                  |               |
| □項目12 | 郷土を愛する心の育ち       | 78.6% (R5より↓) |

◆昨年度よりもポイントは微減。総合的な学習の時間、食農体験授業、学校行事等で地域の方との関わりや地域の方から学ぶ機会を設定し、学習を進めたが「竹枝大好き」に係る項目のポイントは伸び悩んでいる。今年度取り組んだ新たな地域教材への挑戦や地域人材の活用からの「ふるさと学習」の取組が児童主体の探究的な学習になっていたかの振り返りや「郷土・地域のよさ」に触れる学習内容についての整理も必要か。「学び大好き」の項目とも関わるが、発信の仕方についても検討が必要。

### 課題改善の視点

自ら思考・判断・行動

学びの主体者となりうる学習の充実

メディア・学習に係る家庭との連携

ICTの効果的活用と授業改善

自己の目標設定と学びの調整力

情報の整理・多様な発信の仕方の工夫

### 【成果】

#### ○基本的な食生活習慣の定着

児童の項目2,3では、95%以上の児童が肯定的な回答をしていることや保護者の項目2,3においてほぼ88%以上の肯定的な回答から家庭の協力を得て、基本的な食生活の定着につながっていることが分かる。一方、児童の規則正しい生活の項目1では、69.2%と昨年度より低く、関連してより一層の家庭との連携による具体的取組を構築する必要がある。

#### ○自己を肯定的に捉え、互いの良さを認め合う子の育ち

人権尊重の精神

成果2

成果4

児童の項目の5では、96.2%と昨年度よりも肯定的な回答の割合が上がり自己を肯定的に捉えている児童が多いことが分かる。また、児童の項目6,7,9では、88%以上の肯定的な回答があり、他者を大切にしたり、協力して活動することを喜びに感じたりする児童が多いことが分かる。教職員の項目8,20では、90%以上の肯定的な回答があり、学校全体で誰もが安心して過ごせる学級集団作りや授業で互いの意見を認め、協力して学ぶ姿を支えることで、他者を大切にし、良さを受け入れる子の育ちにつながっていると考えられる。基盤となる深い児童理解から信頼関係づくりをより一層大切にしたい。

#### ○誰もが「分かる」「楽しい」授業づくりの実践

成果3

児童の項目の10では、84.6%と昨年度よりも肯定的な回答の割合は微増ではあるが、児童にとって「分かる」「できる」授業実践の成果が伺えた。教職員の項目22,28では、90%以上の肯定的な回答があり、少人数学級の特徴を生かして実態に応じた個別性の高い指導・支援を通して、多様な学び方を保障しようとしたことも児童の肯定的な回答につながっていると考える。

#### ○地域の行事に参加する児童の増加

社会性

成果5

児童の項目14では、ポイントが上がり87.5%以上の肯定的な回答があり、児童の地域行事への積極的な参加から地域への関心の高まりが見られた。保護者の項目8においても、地域の行う行事への参加への肯定的な回答が昨年度よりポイント上がった。一方で教職員の項目13の肯定的回答のポイントの微減も踏まえ、引き続き地域と協働した取組を進めていきたい。

### 【課題】

#### ○自ら目標を持ち、主体的に選択と挑戦を繰り返す児童の育成

表現力

向上心

児童の項目22では、肯定的な回答が76.9%と昨年度より低い。教職員の項目21は、85.7%の肯定的な回答であり、授業等で個々が自己選択できる場を設け、目標達成に挑む取組を行ったが、授業及び学校行事において明確な「目的意識」や「目標設定」が十分意識されていない児童もいると考えられる。授業のねらいを達成するための必然性のある「めあて」の設定や行事における個々の自己決定による実現可能で具体的な「目標設定」を支えるきめ細やかな指導が必要であると考えられる。また、「どこまで達成できたのか」「次どうするのか」等、振り返りまでの学習の過程を一層大切にしたい学習活動を行いたい。家庭との連携によるメディアコントロールや家庭学習等、「自己の目標」を持ち、粘り強く、挑戦する児童を育成を目指したい。

#### ○自ら考え、判断・行動し、学びや行動を調整する児童の育成

向上心

社会性

児童の項目18,19では、肯定的な回答が、50%以下と低い。やらなければいけないからやるという受け身の取組から、自ら考え、計画的に自分の力を伸ばそうとする主体的な取組への変換が課題である。家庭学習と学校での学習を関連させた課題の出し方の工夫はもとより、例えば、端末等を活用したスケジュール管理の学習やTo doリストの作成と同時に優先順位をつけて取り組む学習の工夫等が必要と考える。また、学習の面だけではなく、委員会活動や学校行事、係活動等への取組においても、先を見通しながら目的を達成するためには、「今、何をしておけばよいか。」や「学校全体や学級のためにどう行動するのがよいか」等、個々の役割や立場と関連させながら自己の行動について考える機会を意図的に設定して学校教育活動全体で支えていきたい。

#### ○人と関わる力を発揮しながら学んだことを整理し、多様に発信・表現していく児童の育成

社会性

表現力

児童項目23では、肯定的な回答が、64.3%でありポイントが低い傾向がある。教職員の項目4,5では、85.7%の肯定的な回答ではあるが、児童の回答との乖離がある。授業の中で人と関わることのよさや多様な「考え方」に触れることができるよう協働的な学びの推進はまだ十分ではないと考える。また、児童の項目11では、肯定的な回答が69.2%であり、授業支援ソフトの導入により端末活用しながら児童の1人1人の考えを多様に表現する場面や友達との考えを交流する取組を行ったが、ICTを活用した学びやすさを十分に実感できていないとは言い難い。端末の効果的活用を通して、個の表現力を高める取組や可視化された他者の考えに触れ、共に学ぶ良さを感じられる取組を充実させたい。また、探究的な学びの過程や調べ学習、友達との意見交流で得られた情報を整理するだけでなく、自分の得意な方法で相手に分かるように伝える表現力の育成につなげていきたい。